

トークイベント

2011・7月16日(土)
紀伊國屋書店札幌本店1階

「命の授業」

カメラマン 中川こうじ

2011しっぽの会主催イベント「明日へつなぐたいせつな命」は7月16日(土)21日、紀伊國屋書店札幌本店で開催いたしました。カメラマン中川こうじ氏のトークから、「命について」、「生きていくことについて」、「今私たちに何が出来るのか」を考えさせられた、心に染みるトークでした。ご来場の方々も私たちも、中川氏からパワーをいただいた一日でした。



猫の写真を撮るようになったわけ

みなさん、こんにちは。中川です。
戦場カメラマンという職業は実は世の中にはありません。ただ被写体が僕の場合は紛争地に行つて写真を撮っていたということなんです。僕は今50歳なんです。が、20年先輩くらいの人と話をすると戦地経験があったり、例えば戦争の体験をしてみたり、空襲の体験をしてみたりする。僕は21歳の時に戦場で写真を撮るようになっていました。で、今は猫を撮っています。猫を撮っていると、すぐ動物愛護という括りにいくんですが、僕の中には動物愛護という括りはないんです。僕が猫を撮り始めたきっかけは、戦地に行つたら自分の心も身もボロボロになって帰ってくるわけですが、ある時、「桜の花でも撮ってちょつと癒されたら？」って知り合いに言われ、花見で賑わっている

カオを採ってくる。そのカオを採ってくることで皆さんはチョココレートを食べたり、チョココレートをプレゼント出来る。だったらせめて、バレンタインデーにチョココレートもらって恋人同士になれたんだしたら、ガーナの子供達に「ありがと」って二人で手紙でも書いて、鉛筆の一本でも送つたらどう？って子供達に2年ほど言い続けてきました。その後、ガーナ大使館の人と話す機会があつて、たまに日本の子供達から手紙が来るらしいんですね。やっぱり気持ちだと思ふんですね。気持ちだけでも、例えば「思い」だけでもいいから、そう言うふうに「思つてあげる」ということが大事だと思ふんです。

本当に僕達、幸せに生きていますか？

実はカンボジアとかアフガニスタンとか戦地にいる人達に、自殺した人の話はまじり聞いたことないんですね。それに現地の子供達は夢を語ります。ところが、日本に帰ってきてまず一番最初にびっくりしたのは自殺する人が多いことです。だってカンボジアとか明日も生きられない国の人が一生懸命生きようとしてるのに、明日を生きたら皆さんが明日を悲観して明日を自分でなしにする。子供達は「夢がない。」とか言っちゃう。例えば、世界中で5人の子供がいたとしたら3人は戦地に住んでるというわけている。だから、僕は一番に、「平和ボケするなよ。」と言いたいです。そんな中、今回の震災ではものすごく考えさせられたと思います。で、東北の人達は今言うんです。「もし今日、津波があるんだと思つていたら、俺は何々と何々にもっと優しくしてれば良かった。」「ああ、あの時、笑つてやれば良かった。」「この

公園に行きました。その公園で茂みの中を見たら、野良猫が死んでいました。その時、桜を見てる人達とその猫の亡骸との違和感がすごく心に残ったんです。その時に、どっかで見たこの光景は：と考えると、何とそれは戦地だったんです。他の茂みに隠れていた別の猫を見たら、その猫が何ともいえない表情をしていて、この猫の表情もどこかで見たな：と思ひました。それは戦地に住む子供達の表情でした。

現代の戦争は

僕はずっとこういう仕事をしてきたので、反戦運動がしたかったんです。今の戦争って、ものすごく冷淡になってきました。最小限の火薬で何とか人を殺傷させようとする、これが今の兵器の進み方です。僕は一番最初はカンボジアに入りましたが、カンボジアの空港に降りた瞬間に、手のない人、足のない人、目の見えない人が大勢いるわけですよ。何でこうなるのかといえればそれは地雷なんですね。その当時の印象的だった出合いは、カンボジアに15歳と11歳の兄弟がいて、弟は地雷で片腕を失っていました。次に訪ねて行った時に、木の杵なんです。が、「お兄ちゃんにカメラ作ってもらった。」と喜んでいました。で、とっても印象的だったのは、「こんなカンボジアを撮った。」「おじいちゃんが話してたこんなカンボジアを撮った。」と、復興した時の色鮮やかなカンボジアの姿を話すんですよ。彼はそれが夢だったと思うんです。その次に訪ねていった時には、その少年は両親がなくなっていました。その子は不自由な身体でお父さんお母さんの畑仕事を一生懸命頑張つて手伝っていました。

キーワードは「優しくなろう」

環境も守らなきゃいけない、原発の話や、当然、僕は反戦ですから反戦の運動をしたい。ひとつ何かキーワードとして必要なものは「優しくなろう」ということです。例えば犬猫の世界でもそうですよね。猫の世話をしていると、猫の嫌いな人が来る。「俺のうちにいるなよー」って、「ウンコすんだよ、嫌いだよー」って言う。人種差別とほとんど変わんないじゃないですか。民族紛争とまったく一緒なわけですよ。やれ、中国人嫌いだ、やれ、インド人が嫌いだ。どんな人達なのか理解もしないで、小さな積み重ねで紛争が起こっていくんです。人と人です。良いところもありや悪いところもあるんですよ。良いところを探して、悪いところを補ってあげればいいのに、攻めてくるんですね。例えば、犬や猫が来て糞をする。片付けられないじゃない話じゃないですか。今、「地域猫」といういいシステムがあって、みんな世話をして猫が嫌いな人に迷惑からないよううにすることだとして出来るわけですよ。例えば、フェアトレード。フェアトレードで直接生産した人からたまにコーヒを買ってあげるとか、何か少しずつ工夫してあげる。それがダメなら、「頑張つてね、私も頑張るから。」という気持ちでずつと振る。皆さんがほんの

ちよつと優しくなればいいだけです。国を変えるのもみんなそうです。紛争だの震災だの、例えば、そういう思いをしてきた人達は自分が生きていくことで精一杯だから、僕たち、せめて余力のある人がほんのちよつとの幸せをボンとわけてあげればいだけだと思ふんですね。カンボジア、アフガニスタン、イラクの子供達に「一番欲しいものは何か？」って聞いたら、幸せな国の人達が頑張つてくれたらいいって、「いつか僕達も日本のような豊かな国の人になれるんだ。」って夢を見てるんです。まず僕らは心が豊かにならないといけないと思ふんです。

犬猫ごときではない

世の中、犬猫ごときで言いますよね。でも、犬猫ごときも幸せにできない人達が世界平和だの環境を守るだの出来ないと思ふんです。まず隣に嫌な人がいるのが、嫌いなものがあるのが、「命」として認める。これって大事なことでないですか？生きてるんです。みんな。みんなにも歴史があるんです。ひとつひとつの幸せを探していくのは、すごい楽しいことだと思うんです。僕達、思いましょ。本当に幸せです。本当に豊かです。だったら、少し分けてあげましょ。実は国を変える、世の中を変えるのは僕達の小さな心なんです。日本ってすごいいい言葉があるんですね。「絆(きずな)」東北の時に使いましたよね。優しい気持ちに少しでもなりましょ。皆さんと同じ立場、例えば、ちよつと苦しんでいる人達がいたら、その立場において考えてあげましょ。今、紛争している国はいっぱいあります。で、例えば、愛護の問題もたくさんあります。でも僕は皆さんの優しい気持ちをちよつと分けてもらうだけで、意図も簡単に変わらな思っています。

その畑に埋まっていた地雷で残っていた片腕も失い、次に訪ねて行った時にはその子供はもういませんでした。「やっぱりお父さんお母さんの仕事を手伝ってあげたいって言って、また地雷を踏んだ。」とお兄さんが悲しそうに話してくれました。これは特別な話ではなくて、カンボジアではよくある話なんです。

戦争は他人事ではない

皆さん、戦争つてついつい対岸の火事です。よね？私達には関係ないと思つていませんか？実は今の戦争は社会科で習った戦争とは違います。紛争の八、九割が民族紛争ではなく、いわゆる物資の奪い合いです。ブラッドオイル、ブラッドマネー、ブラッドダイヤモンド、最近は一とつ増えてブラッドメタル、こういうものを求めて利権争いの戦争をしているんです。実際、そんなところの国の人はオイルだの、マネーだの、ダイヤモンドの、レアメタルだの求めていないんです。求めてるのは僕らなんです。それで利権が起ります。それで殺し合いが始まっている。例えばダイヤモンドもそうです。でも、そのダイヤモンドはどうやってどういう流れで来ているか、僕らはそれを考えていかなきゃいけない。僕たちが生活してる時には、自分一人では生きていけないんです。絶対、誰かに迷惑かけているんです。例えば、バレンタインデーにチョココレートを買いますが、チョココレートの原料であるカカオの産地ガーナの子供達は学校に行けてないんですね。何故かという、ガーナはカカオが主の収入源になります。でも、すごい所得が低いんですね。子供も働かなければ食べていけないということで、子供達が一生懸命カ

とにかく僕たちは命だから、犬であろうが、猫であろうが、動物だろうが、僕たちは命なんだから繋がっていくんだ！って強い強いもんがあつたら、必ず権力者達は負けます。心に余裕のある人達が手をつないで生きていこう、小さなことでも優しくしてあげようとか、小さなものでも温かく包んであげよう、そう思ってください。そして、自分の命ですよ。みなさんの家族の命ですよ。お子さんのいる人だったらお子さんに言つてあげてください。とにかく、自分の命は絶つちゃダメですよ。まず自分が生きなきゃ、他の人達は何も出来ない。それを強く思ってください。僕たちは幸せです、この上もない幸せ。何故かという、生きていられるんです。でも、そういう立場にいる人達は世界の中でも半数以下です。「ああ、幸せなんだ。」つてすごく思つて欲しいと思います。そしたら、やるべきことも出てくると思ふんですね。まず感謝しましょ。自分に対して、生きてることに対して、とりあえず、みんなに対して、犬猫に対して、他の国の人達に対して、感謝してそれで何か出来ることを探して少しいからやってみよう、ことつてのが、実は世界を変えることだと思ふんです。



紙数の都合で文章を削ぎさせていただきましたが、原文は近日中にホームページのイベント報告に掲載させていただきます。中川こうじさま、本当に有難うございました。